

## 組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 三朝医療センター

組織目標		達成状況(成果)		
教 育	① 高齢者・地域・在宅・緩和医療を担う人材育成、およびそれに関する臨床研究：地域保健・医療の重要性について十分理解するとともに、総合的ケアおよびプライマリ・ケアに習熟した、超高齢化社会に対応できる医師および医療従事者を育成する。さらに、種々の医療・介護介入の有効性を検証する。 ② 放射線健康科学に基づいた医療を担う人材育成およびラドン温泉の生体影響に関する研究：独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究として、ラドンを含む低線量放射線の生体影響・医療応用に関する研究を推進する。その研究成果に基づいた学部および大学院教育を展開し、当該分野に精通した技術者・研究者・医療従事者を育成する。 ③ 温泉療法の有効性に関するエビデンスの確立と温泉医療に習熟した医療人の育成：慢性呼吸器疾患（特にステロイド依存性重症難治性喘息およびCOPD）、運動器疾患（特に高齢者骨折手術後の回復期）、ストレス性疾患などを対象疾患として、温泉療法の有効性に関する研究を行う。	①岡山大学病院卒後臨床研修における「地域医療」を担当し、地域保健・医療の重要性について教育を行った。また、保健学科学学生を対象に研修を実施した。 ②日本原子力研究開発機構および大学院保健学研究科との共同研究として、平成19年度より、「極微量ウラン影響効果試験」を継続している。本年度は、三朝ラドン効果研究施設が完成し、ラドン温泉の適応症の機構解明のためにラドン曝露試験を行った。低線量放射線環境安全・安心工学研究教育において、大学院博士前期を担当している。 ③慢性呼吸器疾患、運動器疾患などを対象疾患として、温泉療法の有効性に関する研究を実施した。		
	達成度： 4 ③ 2 1			
社 会 貢 献 ・ 診	①鳥取県中部地域において、老年期疾患（呼吸器疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など）を対象とした地域医療を展開する。 ②岡山大学病院を始めとした遠隔地の病院と連携すること（広域連携）によって、慢性呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息など）の温泉療法を、より多くの対象症例に対して実施するとともに、その有効性について医学的エビデンスを確立する。 ③鳥取市立病院などと連携（病病連携）することによって、運動器疾患（特に、高齢者高齢者骨折手術後の回復期）の患者を受け入れ、効率のよいリハビリテーション治療を実施する。 ④地域医療の一環としての在宅医療・緩和医療が行える体制を検討する。 ⑤人間ドックを実施するとともに、三朝町と連携することによって、生活習慣病に対する予防医療を推進する。 ⑥温泉療法の多面的利用促進とともに、その運営形態も一部NPO/民間企業などが関わるなど、よりオープンで地域密着型の大学施設に転換する。即ち、地方自治体、観光業者、旅館・ホテル業者などとの協力体制を構築し、滞在サービスの向上や景観整備などハード・ソフト両面にわたり、観光型から滞在型保養地へ転換することによって、温泉医療を全国的に啓蒙し、地域の活性化に貢献する。	①鳥取県中部地域において、老年期疾患診療を通じて地域医療に貢献した。 ②遠隔地の慢性呼吸器疾患患者を受け入れ、温泉療法を実施し良好な治療成績を得た。 ③整形外科術前・術後の患者に対して、効率のよいリハビリテーション治療を提供した。 ④在宅医療の一環として、訪問診療・看護を開始した。 ⑤人間ドックを実施し、地域の予防医療に貢献した。 ⑥健康増進志向温泉滞在ツアーのモデルプランを受け入れた。その評価も併せて行い、健康増進・地域活性化に貢献する可能性が示唆された。		
	達成度： 4 ③ 2 1			
客 観 的 指 標	事 項	前 年	今年 の 目 標	達 成 状 況
	医療収入の増収	(19年度)670,701千円 (20年度)651,030千円 前年比97%	前年度収入額を維持	(2月末時点見込み)557,550千円 21年10月から全面院外処方となったため収入減あり
	診療経費の抑制	(19年度)232,726千円 (20年度)236,332千円 前年比101%	前年度診療経費を維持	(2月末時点見込み) (20年度)221,192千円 (21年度)156,896千円
	科研費申請率	25%	100%	40%
	科研費採択率	0%	20%	0%
	共同研究件数	(19年度)0件 (20年度)0件		0件
	受託研究件数	(19年度)0件 (20年度)1件	1件	1件
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。 平成21年度には、岡山大学病院卒後臨床研修における「地域医療」担当(教育)、三朝ラドン効果研究施設における動物実験開始(研究)、訪問診療・看護の開始(診療)、健康増進志向温泉滞在ツアーのモデルプランを受け入れ(社会貢献)などの新たな取り組みを行い、一定の成果を挙げている。教育・研究・診療・社会貢献の面において、三朝医療センターの特徴を生かした組織目標をある程度達成できたものと考えている。しかし、成果の面では、いずれも小規模の試みになっており、次年度は、それらの新たな試みをより規模を拡大して行う予定である。さらに、以前からの取り組みも、業務効率を考慮し、可能な限り継続する予定である。				

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)